

第 2 章 圏域の概況

1. 自然条件

(1) 位置・面積

新川広域圏は、本州の中央部・富山県の北東部に位置し、東は新潟県・長野県の県境に、西は早月川を境に富山地区広域圏に接し、南の山岳部には黒部峡谷から立山連峰へと続く中部山岳国立公園が広がっています。

本圏域の総面積は 927.29k㎡であり、富山県全体の 21.8%を占めています。各構成市町の面積は次のとおりです。

【各構成市町の面積】

	面積 (k㎡)	県全体に占める割合 (%)
魚津市	200.63	4.7
黒部市	427.96	10.1
入善町	71.29	1.7
朝日町	227.41	5.4
新川広域圏	927.29	21.8
圏域外	3,320.10	78.2
富山県全体	4,247.39	100.0

資料：平成 17 年国勢調査報告「総務省統計局」

(2) 地勢

本圏域は大小多数の河川が流れており、境川、小川、黒部川、片貝川、早月川などは各市町のほぼ境界線となっています。また、これらの河川の流域に展開する平野部と自然公園（国立公園や県立自然公園）が多い丘陵部及び山岳部によって構成されており、変化に富む地形が織りなす眺望は素晴らしい観光資源となっています。

【自然公園区域】

(単位：ha)

区域	自然公園計	面積に占める自然公園の割合	国立公園	国定公園	県立自然公園
魚津市	2,502	12.5	2,502	0	0
黒部市	23,994	56.3	23,994	0	0
朝日町	13,433	59.4	3,810	0	9,623
新川広域圏	39,929	29.6	30,306	0	9,623
富山県全体	119,754	28.2	79,173	1,005	39,576

資料：土地に関する統計資料「富山県」（平成 17 年 3 月 31 日現在）

平野部は、片貝川と早月川による勾配が急な河川の下流に形成された扇状地と、黒部川などの扇状地で構成されており、合わせて東部扇状地平野と呼ばれていません。かつてこれらの扇状地では、水田の基盤が砂礫層であったため漏水が大きく、そのうえ灌漑用の河川は水温が低く、水田の土壌は鉄分が不足していたことなどが水稲の育成にとって障害となり、*秋落ちによる大きな被害が出ていました。

この冷水温障害と秋落ちを克服するため、昭和26年(1951年)の黒部川扇状地を皮切りに31年(1956年)には早月川扇状地、37年(1962年)には片貝川扇状地においても流水客土事業(淤泥灌漑事業)が実施されました。さらに、事業実施の成果に農業技術の進歩も加わって、これらの扇状地における米作は著しい進歩を遂げました。

出典：富山県史 通史編Ⅶ 現代 P375～377より

* 秋落ち

収穫期前に、急に稲の生育が止まり、意外に収穫量が減少すること。稲の葉は下葉から次々と枯れ貧弱な穂しか出ない。鉄分などが表土から溶脱した老朽化水田で起こりやすい。

(岩波書店 広辞苑第5版)

(3) 気象

本圏域の東部、南部には3,000m級の山岳地帯を控えており、アメダス観測地点である泊や魚津の年間降水量は2,500～3,000mmで推移し、富山や県西部の伏木よりもやや多くなっています。

また、年間平均気温は13～15℃前後で推移しており、平野部においては比較的温暖であるといえます。

2. 人口・世帯数

平成 17 年（2005 年）の国勢調査報告によると新川広域圏の人口は 131,730 人であり、富山県人口 1,111,729 人のうち 11.8% を占めています。12 年（2000 年）の 134,411 人と比較すると減少率は 2% であり、富山県全体の減少率 0.8% に対し 1.2 ポイント上回って人口減少が進んでいます。

また、世帯数は 43,563 世帯であり、12 年の 42,228 世帯と比較すると 1,335 世帯が増加しましたが、増加率は 3.2% であり、富山県全体の 4% に対し 0.8 ポイント下回っています。

【新川広域圏の人口及び世帯数の推移】



資料：国勢調査報告「総務省統計局」

人口が減少する一方で世帯数が増加したため、1 世帯あたり人員は 0.15 人減少しています。

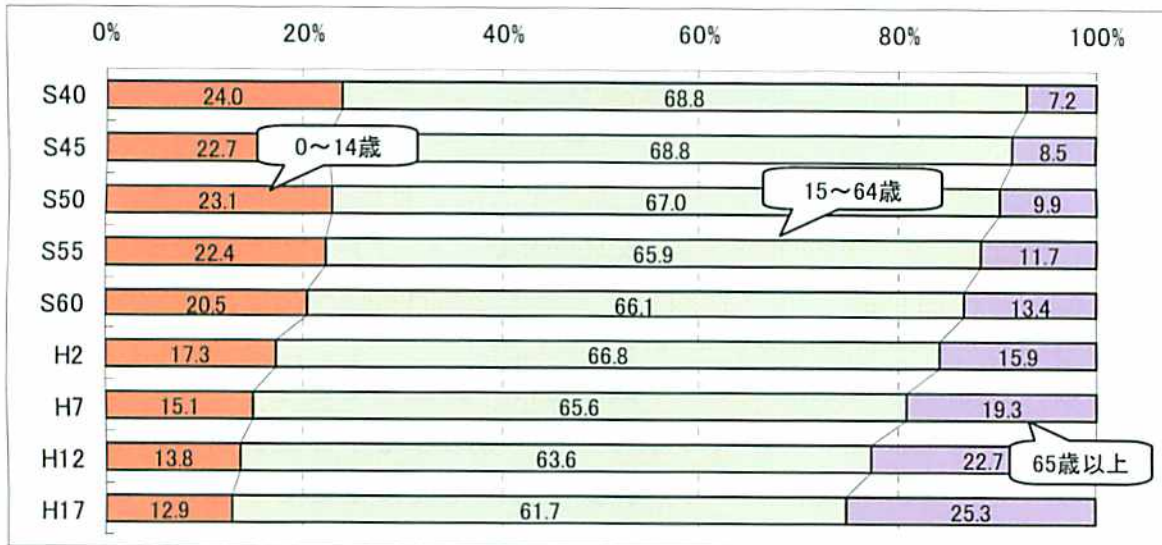
【1 世帯あたり人員の推移（単位：人）】

	H7	H12	増減 H7-H12	H17	増減 H12-H17
新川広域圏	3.39	3.18	▲0.21	3.03	▲0.15
富山県全体	3.33	3.13	▲0.20	2.99	▲0.14

資料：国勢調査報告「総務省統計局」

年齢 3 区分別人口の割合を平成 12 年と比較すると、年少人口の割合が 0.9 ポイント、生産年齢人口が 1.9 ポイント低下する一方で、老年人口が 2.6 ポイント上昇し、老年人口の割合は富山県全体の 23.2% を 2.1 ポイント上回っています。

【年齢3区分別人口の割合】



資料：国勢調査報告「総務省統計局」

3. 就業構造

産業別就業者数は第3次産業の割合が49.4%を占め、富山県全体と同様に最も高く、次いで第2次産業、第1次産業が続いています。傾向としては国勢調査の回を追うごとに第1次産業の割合が低下し、第3次産業の割合が上昇しています。産業のソフト化、サービス化の進展に伴い第3次産業の割合は今後も上昇することが予想されます。

また、第2次産業の割合はそう大きな変化がなく、平成12年の国勢調査報告では富山県全体の38.4%に対して6.5ポイント上回る44.9%を占めており、製造業のウェイトが高い地域であるといえます。

【産業別就業者数、割合の推移】

単位：人、%

新川広域圏	第1次産業	割合	第2次産業	割合	第3次産業	割合	計
S55	12,456	16.1	32,535	42.2	32,165	41.7	77,156
S60	8,572	11.1	34,855	45.2	33,738	43.7	77,165
H2	6,400	8.3	35,632	46.1	35,194	45.5	77,270
H7	6,218	8.0	35,075	45.0	36,606	47.0	77,899
H12	4,169	5.7	33,018	44.9	36,307	49.4	73,539
富山県	第1次産業	割合	第2次産業	割合	第3次産業	割合	計
S55	69,618	12.1	220,906	38.4	284,971	49.5	575,495
S60	52,775	9.1	230,354	39.7	296,794	51.2	579,923
H2	39,215	6.6	242,293	40.8	311,872	52.5	594,080
H7	34,734	5.6	244,989	39.8	335,479	54.5	615,202
H12	23,515	3.9	229,675	38.4	343,204	57.4	597,702

資料：国勢調査報告「総務省統計局」

4. 圏域各市町の概況

(1) 魚津市

魚津市は圏域の西に位置し、早月川を隔てて滑川市、布施川を境として南東部の山岳地帯では黒部市と接しています。古くから水産業、商業の街として発展し、近年では製造業の伸びも目覚しく、工業の街としても発展を続けています。

昭和27年(1952年)4月に1町11村が合併し、「魚津市」が発足して以降、大水害や大火などに見舞われましたが、その後市街地の再整備や住環境の整備、産業や教育・文化の振興を着実に進めてきています。

産業面では豊かな地域環境や広い裾野を持つ製造業基盤など、好立地条件を活かして企業誘致を推進し、近年では大型の先端的な電子部品製造業の増設・誘致につなげています。今後、こうした誘致企業が地元に着し、地元産業界との結びつきが強まることにより、地域経済への波及効果の拡大が期待されます。

観光資源として「蟹気楼」や「埋没林」などが全国的にも珍しく、かまぼこの製造工程を見学できる「かまぼこ館」やりんご直売所、平成16年(2004年)にオープンした観光物販施設「海の駅・蟹気楼」などにおける産業観光の推進、特産品の直売、朝市の開催など地域の活性化を目指した民間の取組も積極的に行われています。

また、「新川文化ホール」や「ありそドーム」、「ミラージュランド」「水族館」などの文化・スポーツ・レクリエーション施設におけるコンベンション、イベントの開催や歴史と伝統に育まれた祭りの実施など幅広い分野で広域的交流が盛んになっています。



海の駅・蟹気楼

(2) 黒部市

平成18年(2006年)3月に旧黒部市と旧宇奈月町が合併し、圏域では最大の面積となる新しい「黒部市」が誕生しました。黒部市は圏域の中央部に位置し、黒部川をはさんで入善町、布施川をはさんで魚津市に接し、南部の山岳地帯は朝日町、長野県、上市町、立山町に囲まれ、面積の6割近くが立山連峰をはじめとする「中部山岳国立公園」に指定されています。



黒部峡谷鉄道・宇奈月駅

平野部はYKKなどの工場誘致を中心に工業化が図られ、多様な製造業が立地し、圏域では働く場として他市町から就業する人がもっとも多い都市となっています。YKKの黒部工場と黒部市内を周遊観覧する産業観光への取組も平

成 18 年 8 月から始まっており、地元産業の P R と地域経済への波及効果が期待されます。

山岳地帯は宇奈月温泉、谷浴いを縫うように走る黒部峡谷・トロッコ電車で代表される観光のまちであり、温泉街の活性化に向けて周遊バス運行実験やさまざまなイベントを実施するなど、地域住民と一体となった取組が行われています。

また、「国際文化センター」「総合体育センター」「セレネ美術館」などのスポーツ、文化施設が充実し、幅広い広域的交流が盛んになっています。

なお、平成 26 年（2014 年）度末までに北陸新幹線が金沢まで開業することが決定したことにより、新黒部駅（仮称）の設置、及び新駅周辺整備がこれから本格的に進む見通しです。

（3）入善町

入善町は圏域の中央北部に位置し、黒部川を境に黒部市と、小川などをはさんで朝日町と接しています。黒部川の伏流水は湧水となって扇端部で自噴し、生活用水などはすべて地下水でまかなわれる豊かな水資源に恵まれた町です。

これまで黒部川の氾濫による水害がありましたが、流水客土事業（淤泥灌漑事業）が行われ、県内有数の穀倉地帯になるとともに、ジャンボ西瓜や各種野菜、球根プラントなどの園芸など扇状地の特性を活かした農産物を育んできました。

また、新たな水資源である海洋深層水を農業・水産業・食品製造業分野などでの利活用を促進するため「入善海洋深層水活用施設」が整備され、最近では利活用だけでなく、深層水から塩を製造し販売する企業が立地しています。

さらに、近年は先端技術産業の大型企業誘致にも成功し、農工一体のまちとして発展を続けています。

豊かな水の恩恵を受ける入善町は、名水百選に選ばれた「黒部川扇状地湧水群」や国指定天然記念物「杉沢の沢スギ」などの自然資源をはじめ、旧水力発電所を再生して整備した「下山芸術の森・発電所美術館」などを活用して、圏域内外に向けた「水文化」の創造と発信を続けています。



ジャンボ西瓜

（4）朝日町

朝日町は圏域の東端に位置し、東は新潟県、長野県と接し、西は入善町、南は黒部市、長野県と接しています。町の東南部には白馬岳、朝日岳を主峰とする北アルプスがそびえ、面積の約 6 割が「中部山岳国立公園」「朝日県立自然公園」に指定され、豊かな自然環境に恵まれています。

沿岸部はヒスイの原石が拾えることで知られる「ヒスイ海岸」（宮崎・境海岸）があり、これらの豊かな観光資源を活かしたまちづくりを進めています。

朝日町の特徴として、農業地域の女性たちによる農産品加工グループやまちおこしグループの活動が活発で、平成16年（2004年）には朝日町農林物産加工施設整備を機に加工グループによる農業組合法人「食彩あさひ」が設立されています。豊かな水と米、野菜など地元産の食材を使用して農産品や特産品を開発・生産・販売し、観光振興を通じてまちの活性化にも一役買っています。

観光資源に加え、農村地域総合交流促進施設「なないろKAN」、勤労者総合ス



ヒスイ海岸オートキャンプ場

ポーツ施設「朝日ヒスイ海岸オートキャンプ場」、環境ふれあい施設「らくち〜の」などの交流拠点施設も整備されています。

また、朝日町で考案されたビーチボールは「いつでも、だれでも、どこでもできるスポーツ」として全国に競技の輪が広がっており、毎年9月には全国競技大会が誘致され、県内外から2千人以上の参加者が集まるスポーツイベントになっています。